

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人水野学園
東京すし和食調理専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人水野学園 東京すし和食調理専門学校「学校関係者評価委員会」は、令和2年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 開催日 令和3年6月15日(火)

2. 学校関係者評価委員

・ 関連業界等関係者

須田 信広 様

奥井 隆 様

高津 伊兵衛 様

一般社団法人 和食文化国民会議

株式会社 奥井海生堂

にんべん株式会社

副部会長

代表取締役社長

代表取締役社長

3. 水野学園からの参加者

渡辺 勝

長谷川 哲也

酒匂 博

松山 英一

平山 八都香

岩崎 瑠美

用松 秀樹

東京すし和食調理専門学校 学校長

東京すし和食調理専門学校 学科長

学校法人水野学園 教育部長

学校法人水野学園 総務部長

学校法人水野学園 広報部次長

東京すし和食調理専門学校 学務係長

学校法人水野学園 総務係長

4. 評価方法および評価点について

・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。

・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。

★評価点基準・・・ 4=適切 3=ほぼ適切 2=やや不適切 1=不適切

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		評価点平均	4.00
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで配布・学生周知が進められている。前年度から具体的検討が行われていた3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）をまとめ、水野学園総合ホームページ上にて公表した。	
	2	学校の将来構想を抱いているか	和食調理科（2年制課程）と和食研究科（3年制課程）としての第1期入学生を迎え、将来構想に則った改組が具体化されている。また本校の姉妹校となる新学校の開校準備室が設置され、2023年開校を目指して具体的な準備が開始されている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 教育理念については、前年度同様に学生便覧に記載する等学生への周知浸透に心掛けています。また、授業内容以外にも、学園生活の規範や各種学校行事などについても、この教育理念に基づき企画運営されています。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 文部科学省が高等教育機関に求める『3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）』を策定し、全体に周知させることができました。今後は教育の成果がその軌道上にあるか、ということを確認する機会を年度末に設けることが必要であると考えます。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			

項目 2	学校運営		評価点平均	4.00
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。	
	4	中長期的な事業計画を定めているか	前年度の中長期事業計画に基づき、本年度より「和食調理科(2年制課程)」と「和食研究科(3年制課程)」の2学科新体制による入学者を迎えている。	
	5	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学園長、学校長、各部門長により、「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。ただし例年全教職員を対象として実施していた「教職員会議」については、コロナ禍のため実施を見送った。	
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。	
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	本年度はコロナ禍対策として、学生の授業オンライン化以外にも教職員の各種会議のオンライン化、在宅勤務のためのインフラの整備を行った。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コロナ禍により学校運営上様々な対応が求められた一年となった。特に感染防止対策としては水野学園全体で「新型コロナウイルス対策委員会」が設置され、①学内感染防止対策 ②オンライン授業推進 ③教職員在宅勤務奨励 ④コロナ禍のための学生特別奨学金制度創設 などにあたりました。各種コロナ対策により学内でのクラスターはおきず、休校となることもありませんでした。所定の授業時間を実施することができました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> コロナ禍は2021年度も継続すると思われます。引き続き感染拡大防止並びに健全な学校運営のための日々の対策を強化していきたいと思っております。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。コロナ禍の学校運営にあって、感染対策を徹底し学内クラスターの発生を抑えたことは評価に値する。引き続き感染対策の努力を継続してほしい。			

項目 3	教育活動		評価点平均	4.00
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	例年通り、各科目の教育目標を明確化させ、その到達指導に取り組んでいる。特に実習科目では、科目担当講師の定期的ミーティングにおいて、指導要綱や指導手順、学生の理解度の確認とすり合わせを行っている。	
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価に関しては、年1回の学生授業評価アンケート以外にも授業毎のアンケートをこまめに実施し、学生の授業理解度や習熟度を確認している。	
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	実習教員はすべて料理人として現場経験が豊富であり、教育顧問の店舗で就業または研修を経験している。講義科目についても、担当教科に関連する現場経験のある講師を揃え、学んだ知識を食の業界でどのように活用するかをふまえた指導を心がけている。	
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学園教育部長と連携し、学校長・学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。実習系教員は週1回、会議を実施し、こまめな情報交換を行っている。また兼任教員を含む全教職員による会議も年に2回実施し情報共有を図った。	
	12	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。	
	13	資格取得の指導体制はあるか	「水野学園 職業技能検定 すし・和食部門」3級は1年生全員が合格を目標とし、一度不合格の学生には対策指導の機会を設けて再受験を促した(取得率72.5%)。また日本ホテル教育センター主催「和食検定」について、コロナ禍のため学内実施は見送ったが、検定の取得意義を伝えて外部会場受験者を促し、希望者には試験対策サポートを行った。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 2019年度の反省として、以下の課題が懸案となっていました。 ①和食調理の厳しさばかりではなく、楽しさや魅力を伝える努力と工夫 ②学生がより相談しやすい体制づくり</p> <p>課題①については、「焼き鳥調理や和菓子調理など、学生が楽しめる特別授業の実施」「学生の授業理解度アンケートを定期的に行い、理解度や習熟度を確保する」という対策を行いました。 課題②については「複数担任制度(3名の専任教員が3クラスの学生全員を指導する)」を導入しました。 結果として、1年生進級率は93.2%(前年80.5%)と大幅に向上させることができました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 2020年度はコロナ禍により学園祭をはじめ様々な教育活動を制限せざるを得ませんでした今回実施を断念したプログラムにおいても、今後はオンライン上での実施の可能性を検討していく必要があると考えます。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。 必要に迫られで実施したオンライン授業の取組は、遠隔地よりの特別授業や実習の映像資料など今後も教育的・広報的資産として活用できるはずである。今後の活用を期待する。			

項目 4	学修成果		評価点平均	3.67
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	希望者就職率は前年度に続き100%となった。本年度は新型コロナウイルスの影響で求人確定および採用スケジュールが後ろ倒しとなったが、その分、進路相談や面接指導などの準備時間に充て、学生が自身の希望を確定した上で応募できたため好結果につながった。大手企業を中心に採用見合せが多く、特に留学生を採用する企業が激減したが、不安定な状況下では母国に帰りたいと望む学生が増え、留学生の就職希望者は10名に留まった。	
	15	資格取得率の向上が図られているか	例年通り「水野学園職業技能検定3級」を1年次の挑戦課題とし41名が合格した。不合格者には、練習・指導の機会を設けた上で再試験を行い9名が合格し、全体で72.5%(50名/69名)の合格率となった。	
	16	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から卒業生の就職先訪問は控えたが、求人状況と併せて企業への定期連絡を行い評価を確認している。また7月には卒業生に向けたアンケート調査を行い就業情報の把握に努めた。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コロナ禍でも卒業前に就職希望者全員が就職内定することができました。また、卒業後、より実践的な現場体験を行う『調理研究科』への進学者が過去最多の18名となったことより、在学中にすし・和食分野への興味を喚起できた結果だと思慮いたします。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 新型コロナウイルスによる飲食業界への影響は2021年度も続く見通しです。特にアルバイトや現場研修など、希望進路との接点がないまま進路を決めることに不安を感じる学生も増えています。オンライン企業説明会の積極導入や学内で在校生と卒業生をつなぐ機会の創出、現役料理人の特別授業など、学生が働くことを想起できる機会を増やすとともに、早期に個別面談を行い不安を払拭する取組を行っていきたいと思います。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、概ね適切と思われる。 卒業した留学生の海外ネットワーク構築は、今後卒業する留学生の就職支援や和食の海外普及にはとても有効である。ぜひその取組を継続してほしい。</p>			

項目 5	学生支援		評価点平均	4.00
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	1年次から授業やガイダンスを通して、業種や業態の違い(総合調理施設、専門店など)、規模や体制ごとの働き方と特徴について伝えている。留学生については、ビザの種類や必要要件についての特別ガイダンス実施している。その後、担任講師と進路指導担当職員で連携して学生面談を行い、希望や適性にあった進路選択ができるようサポートをしている。	
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	本校では中途退学者が継続して学べる代替コースは設置されていない。	
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担当と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用のほか、授業や学生生活についてオンラインアンケートの実施により、学生の声を積極的に拾い上げ相談体制を構築している。また、留学生指導の専従担当を設置し、母国保護者との連絡を含め留学生の生活指導にも努めている。	
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	2020年度より「高等教育無償化」制度の認定校になり利用できるようになった。そのほか、日本学生支援機構等、公的奨学金の案内と対応を行っている。今年度は新型コロナウイルスによる家計の急変に対する「コロナ対策特別奨学金制度」を設置し、迅速な救済に努めた。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて経理担当が個別相談を行っている。	
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、毎年、全学生の健康診断を実施している。今年度は特に水野学園コロナ対策委員会の決定に基づき ①入校時の検温 ②手指消毒 ③常時マスク着用 ④試食授業でのパターションの設置 ⑤定期的な学内換気 ⑥終業時の共有施設の除菌 などを継続的に実施している。また、発熱学生は解熱後2日まで登校停止(公欠)とする特別措置をとっている。	
	22	保護者と適切に連携しているか	毎年2回、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付している。本年は水野学園全校合同で、学科ごとの授業成果を学生が発表する「プレゼンテーションズ」を開催し、保護者にもオンラインで配信した。	
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。また、優秀な卒業生に対しては、「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度も制定されている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価しています。特に高等教育修学支援新制度(学費無償化)は、専門学校の初年度認定率が62%(2713校中41688校)でした。毎年の確認申請が必要な制度であるため、継続して学生支援ができる環境を整えていきたいと思ひます。</p> <p><今後の対策> 今年度は「水野学園奨学金規程」に準じ、コロナによる家計急変者を救済するための奨学金を特別に設置し学生支援を行いました。今後も社会の動向を考慮し必要に応じた学生支援を検討していきたいと思ひます。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。コロナ禍による学生への経済支援の取組により多くの学生が救われたことは評価に値する。			

項目 6	教育環境		評価点平均	3.33
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。教室の什器備品等については、各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・保健室などの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。	
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	コロナ禍のため、年初に計画されていた種々の学外学習や不特定多数を学校に招き入れる学園祭・賞味会、学生の企業インターンシップなどの多くは中止または代替行事に変更した。実施できた行事は ①2年生学外学習(三浦港でのまぐろ学習)、②調理研究科店舗実習 ③調理研究科店舗運営(2回)のみとなった。	
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施している。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記の通り、施設・設備等の教育環境や防災体制は整備されていると思います。ただし学外学習等については不本意な結果となりました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 2021年度も「感染拡大防止」と「教育成果の充実」の両立を心がけて学外学習を計画する必要があると考えています。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。感染拡大防止の観点から、様々な学外での教育活動が実施できなかったことは残念であるが、状況を鑑み致し方ないと判断する。コロナ収束後はぜひ再開してほしい。			

項目 7	学生の募集と受け入れ		評価点平均	4.00
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学園長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。	
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については学校長が全員と個別に面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断している。	
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記の通り、適正に実施されていると思います。 コロナ禍の状況により、入学者向けイベントは「オンライン型」を充実させ、来校しなくても学校を知っていただくイベントを毎月開催しました。AO入試では「オンライン面接」を導入。コロナ感染のリスク回避に加え、遠方者が上京する必要がなく志願者にとってプラスとなりました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> コロナ禍のため留学生の入学者が大きく減少しました。今後の募集上の最重要課題は、前年に引き続き「日本人高校卒業予定者に訴求できるか」です。2021年度は調理系高校を中心に「特別指定校・指定校制度」を導入し、高校との関係強化を図ることで、日本人学生の募集増を目指したいと考えております。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。 次年度以降も積極的な広報活動を期待する。			

項目 8	財務	評価点平均	4.00
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	高等教育修学支援新制度や学園独自の奨学金制度等により、入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことで安定的な収入を確保し、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学園長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学園長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。 2020年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 上記のとおり、適正に管理・運営されていると思います。次年度もこれを継続します。</p>		
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、適切と思われる。 このような社会情勢の中健全な学校会計が行われていることは評価に値する。</p>		

項目 9	法令等の遵守	評価点平均	4.00
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果を学校ホームページ上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、学校ホームページ上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われています。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、ホームページにて公開することとしています。</p>		
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。		

項目 10	社会貢献		評価点平均	3.00
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<p>例年であれば「学園祭における料理店の開業による地域住民との交流」「調理研究科において学生自身が企画・運営する『すし和食 一膳』の店舗運営」を実施しているが、本年度はコロナ禍のため以下の通りに変更した。</p> <p>①学園祭はすべてオンラインとし、地域住民および学生保護者、関係者には学生の産学共同プロジェクトの成果を報告した。 ②店舗「すし和食 一膳」は2回のみ開催となった。</p>	
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	<p>本年度に関しては、コロナ禍を考慮し学生の学外における活動は一切奨励できなかった。また、例年実施している諸団体の教育活動支援による教室貸出要請が一件もなかったため、お手伝いを通してのボランティア活動は制限される結果となった。</p>	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 本年度は、学生及び教職員の不特定多数との接触を避けるため、従来実施している社会貢献活動は一切自粛することとなりました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> コロナの収束を待つて再開したいと考えています。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、概ね適切と思われる。 コロナ収束後はぜひ再開していただきたい。</p>			

項目 11	国際交流		評価点平均	3.33
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	留学生受け入れについては、全員に学校長面談を義務付けており、日本語能力以外にも就学意欲や就学目的の確認を行ったうえで可否を判定している。また、在籍管理においては学務課に留学生生活指導担当を配備し、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。2020年度も東京出入国在留管理局より、在籍管理に特段の問題がないと認められる「適正校」に選定されている。	
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	海外渡航自粛を受け、例年訪問している海外教育提携校への支援はすべてオンライン実施に切り替えとなった。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 留学生の資格外活動を含めた在籍管理については、例年通り実施できています。また、海外教育提携校への支援についてもオンライン対応に切り替えて継続することができました。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 次年度も留学生の在籍管理、海外での日本料理教育支援を引き続きしっかりと継続していきたいと考えています。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			